

大嘗祭で供える庭積の机代物（精米）を供納しました

長崎地域普及課

令和元年11月14～15日に行われた皇位継承に伴う重要祭祀「大嘗祭」の中心的儀式「大嘗宮の儀」で、神々に供える全国の特産品「庭積の机代物」のうち、精米と精粟を宮内庁に納める納品行事が10月30日に行われ、長崎県からは供納者として推薦された長与町の山中秀昭氏が、自身の斎田で丹精込めて栽培されたヒノヒカリの精米1.5kgを供納されました。

当日、西日本の主基地方の供納者の一人として出席された山中さんは、宮内庁の式部官長からの今年の水稲の生育状況等に関する質問に、長雨や台風などの自然災害に苦労したが、肥培管理をしっかりと行って供納する米を生産することができたことなどを答えられていました。

今回供納された米は、6月7日に御田植祭を行い、

10月2日に抜穂祭を行って収穫されたものです。収穫後は斎田において掛け干しされ、乾燥後は脱穀、籾摺り、精米を経て、1.5kgの供納米が整えられました。



山中秀昭さん

東彼杵町定休型肉用牛ヘルパー組合が設立

大村・東彼地域普及課

肉用牛農家は毎日の給餌作業や飼料調製、発情確認や牛床の清掃等で休みがありません。そこで、定期的に休みが取れるように、東彼杵町の繁殖牛農家で定休型肉用牛ヘルパー組合を立ち上げるための検討会が重ねられました。

その中で組合の規約や業務内容、料金等について熱心な話し合いが行われ、令和2年1月に「東彼杵町定休型肉用牛ヘルパー組合」が設立されることになりました。ヘルパー要員さんは肉用牛農家で経験を積んだ方で、12月からの組合の農場で「お試しヘルパー」として活動を開始されており、即戦力となっております。

また、11月26日に熊本県菊池市で開催された「九州地域肉用牛定休型ヘルパーサミット」にも組合員が参加し、様々な話を聞きながら勉強し、更なる能

力向上を図るよう努力しております。

振興局としても、ヘルパー組織が利用できる事業の支援や研修会の実施等、各関係機関とも連携を図りながら運営の支援をしております。



ヘルパー組合の話し合い